



法要祭の様子

今年も雨が降る中始まった

奈良山霊苑 春の合同法要祭

お足元の悪い中、大勢の方にご来苑
頂き誠にありがとうございました。

奈良山供養塔前と樹木葬霊域におい
て、奈良山等妙寺関任職の読経により、
厳かに追善供養が執り行われました。

4/23 樹木葬テレビ放映!

少し前までは、火葬した遺骨はお墓に
納骨するのが当たり前でした。

しかし、お墓を建てたくてもお墓の継承が困
難等で建立出来ない方もいます。

近年では、情報網も多様化し、葬送法の選択
肢も広がり、樹木葬や永代供養を考える人も増
えてきました。全国的に見てもは樹木葬を行える
霊苑・墓地は増加しており、当霊苑の樹木葬
も、県内外からご契約やお問合せを頂いており
ます。

先日、当霊苑の樹木葬をご契約された数組の
お客様にテレビ取材が行われ、

「元気な内に自分達の終の住まいを決めておき
たい」「樹の下で自然に還り、土に還りたい」
という思いを話されていました。

山々に囲まれ、鳥のさえずりに包まれたこの
霊苑で、趣味の楽器を演奏される利用者様。楽
器の音色が事務所まで届き、心地よい気持ちに
なりました。

いつか考えようと思っけていても、なかなか考
えられないお墓のこと。元気な内に納得のいく
お墓について考えたいですね。

どこに眠りたいのか…。

取材に快くご協力頂いた皆様、
ありがとうございました。



永代供養や樹木葬について詳しくは、お気軽にお問合せ下さい。



お祀りしている故人様の冥福を祈
り、敬い、感謝する法要祭。回数を
重ねる度に、利用者様や来苑者様も
増えて、お知り合い同士にならな
り、私達スタッフとの大切な交流の
場ともなっています。
これも故人様が設けてくれたご縁
ですよね。
三年前の納骨の際にご両親の隣で
ヨチヨチ歩きだったお子様が、一
歩きをして成長している姿に、とっ
ても嬉しくなりました。
普段は静寂な霊苑ですが、この日
は皆様の会話や鬼城太鼓さんの太鼓
の響きに包まれ、とても賑やかな一
日となりました。
これからも皆様に愛される憩いの
霊苑となるよう、努力して参ります
ので、どうぞ宜しくお願い申し上げ
ます。

自然派食品 始めました!

管理事務所では、自然派食品の取り扱いを始めました。
細胞活性化に効果絶大と言われている「ココナッツオ
イル」や、国内産の材料を使用した食料品など…。
調味料からお菓子まで、一度、覗きにきてみて下さい。



巻では、
売切れ続出!

事務員の日常

桜前線も北上し、霊苑の桜も葉桜と
なりました。
四月に入り雨の日が続いたある晴れ
た日に霊苑へ上がってみると…
えっ!、ガックリ(涙)
頭の中で、闘いの始まりのゴングが鳴
り響きました。
法要祭前に手入れしていた草達が、
二ヨキニヨキと急生長しているではあ
りませんか!? あちら此方で以前よりも
増えて見えるのは目の錯覚でしょうか?
姿に変身した季節、帽子に長袖の清掃
して“怪しい人”ではないので安心し
てください(笑)
清掃中にはお詣りの方から
「ご苦労様です」
「綺麗になったね」
と声を掛けてもらって、とっても嬉し
い♪
いつでも気持ちよくお詣りして頂け
るようにならなりたい!

お友達と一緒にでも
OKですよ!

お墓セミナー開催中!!

毎月第2木曜日
10:00~12:00
管理事務所2階にて

お気軽にご参加下さい! 私たちも居ます。

発行元: 奈良山霊苑管理事務所
〒798-1351
愛媛県北宇和郡鬼北町奈良4230-1
電話番号 0895-45-0164
http://narayama-reien.jp
営業時間 9:00~17:00



きれいに咲きました

NEWS



『きずな 春号』に
組合長のインタビュー
と共に奈良山霊苑を
掲載して頂きましたあ!
駅などに置いてあり
ますので、ぱらりと
めくってみて下さい。

墓地埋葬法第十四条により、無断で納
骨する事は出来ないことになっておりま
す。納骨の際には、「埋(改)葬許可証」
と利用証明証(使用承諾書)を、
必ず管理事務所までご提示の程
宜しくお願い致します。

納骨の際には「注意を



専務のコラム

さて、私事ではございますが、我が家には2才のオスの柴犬(名前はコムギ)がおります。当時中学生だった娘がどうしても柴犬を飼いたいと言うので、知人の紹介で2ヶ月半のコムギを譲ってもらいました。



最初の約束では、「散歩も世話もきちんとやる」はずだったのですが、張り切ってやったのは3日だけ。(だまされた!) あれほど「お母さんは出来んよ」と念を押したはずなのに、気がついてみれば散歩も世話も全て私の仕事になっていました。(どこも同じよ、と皆に言われる)

子犬のコムギはやんちゃで元気満々。少し目を離すと、バッグは壊されソファーはかじられ、掃除機のコードは噛み切られ、大事な書類は食べられ・・・と、毎日が悲鳴の連続でした。おまけに脱走するのが大好きで、高いフェンスもヒョイッと飛び越え(巷では「ルパン三世」と異名がついていた!)公道を走り回り、何回ヒヤヒヤしたかわかりません。仕事中、事務所のドアの外でニコニコしながら尻尾を振っているコムギにびっくりした事も。



と、まあ世話の焼けるヤツですが、私の顔を見ると飛び回って喜ぶ姿は何とも可愛くて仕方が無いのです。

もともと鳥や猪などを追いかける猟犬だった柴犬は散歩も大好き。ニガテだった朝も、毎朝4時半には起こしてくれるコムギのお陰で早起きの習慣が身につきました(苦笑)。朝夕の散歩ダッシュ40分で運動不足無しですよ(苦笑)。

聞くとところによると、犬を飼うと人間の寿命が5年延びるらしいですね。それってやっぱり散歩したり運動やらの効果もあると思いますが、飼い主自身に安らぎや笑い、楽しみが増えたり、責任感や生活に張り合いが出来るといった心理的効果が大きいみたいです。また、犬と触れ合う事によって血圧が下がる、といったデータもあるようです。

何はともあれ、仕事が終わって私が事務所から出るのを毎日ジ~~~~ッと見ているコムギさん。「コムギ~~~~♡」と声を掛けるとジャンプして喜ぶ姿に今日も癒されている私なのでした。



奈良山等妙寺のお話

【第3回】

これまで等妙寺縁起に記されている「曾我兄弟の伝説」についてみてきました。

この曾我伝承や伝説は、曾我兄弟出身の関東地方に多いのですが、西国にも少なくありません。

とくに南予一帯から高知県南西には広く曾我神社が祀られています。

曾我十郎祐成の首塚（内子町）



内子町大瀬には曾我十郎神社や曾我十郎祐成の首塚があります。この首塚の由来には、等妙寺縁起の記述と深く関連しています。

富士の裾野で父の仇討ちを果たした曾我十郎祐成は、のちに仁田四郎忠常に捕えられ、首を獄門に曝されます。家臣鬼王三郎は、宇和島地方鬼が城の出身で、祐成の首を弔おうと故郷に持ち帰るため、はるばる海を渡ります。

しかし、風波のために伊予郡上灘に漂着し、検問の厳しい中を山伝いに大瀬村乙成まで来ました。長旅の疲れから持ち帰ることができないと悟り、田のなか深くに埋めて塚を造りました。それから鬼が城に戻り、鬼王寺を建てて祐成の霊を祀った—というものです。

この首塚には、自然石の碑があり、「建久四癸丑年五月二十八日（一一九三）富士野御狩時討親敵工藤祐経達本意為仁田四郎忠常被討年二十三宇和島産鬼王持帰葬此處」と記されています。

また、塚のある田は、慶安二年（一六四九）の検地帳に「十郎田」とあり、このころすでに首塚が存在したことを示しています。

こうした「曾我伝承」は、研究者によって「曾

我物語」を語り伝える時宗の聖や熊野系の比丘尼・修験者（山伏）等との関係が指摘されています。

南予から高知県西部の広範囲に及んでいる曾我伝承と等妙寺との関わりについては今のところ確かな証拠はありませんが、等妙寺縁起の成立に深くかかわっていることは間違いありません。

等妙寺縁起で伝説の地とされる松野町目黒地区には「曾我の元祖の形見石」、「鬼王が墓」、「鬼が城」が伝えられています。こうした勝地や霊岩は、等妙寺僧や等妙寺に関わる修験者の修行した地の存在を示すものとして注目されています。

神社と寺院との関係

さて、曾我神社等の神社の広がりや等妙寺と、つまり神社と寺の関係がどうだったのかなど、なかなか理解が難しいと思います。

みなさんは、「神仏習合」「神仏分離」といった用語をご存知かと思えます。

日本古来の神を祀った神道と大陸から伝わった仏教は歴史のなかで様々な理解がなされてきました。神道と仏教が混在した状態、それが「神仏習合」です。

たとえば、神宮寺という、神社境内に寺院を建てる形や、寺院の守護神として鎮守社を置くこと、こうした形が代表的な在り方を示しています。六世紀に仏教が伝来して以降、仏教の広がりとともに一般大衆化していく過程で、神道も変質していきます、神仏習合が進んでいきました。

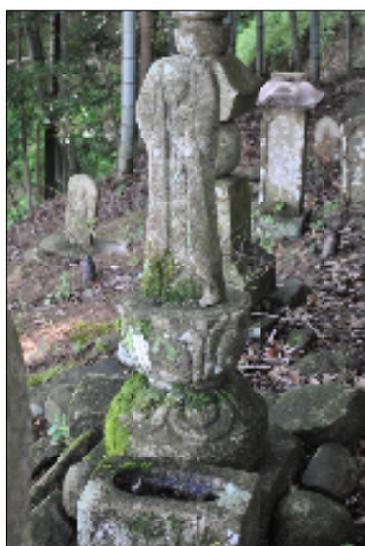
「神仏分離」は、その反対で、神と仏を明確に区分する考え方です。江戸時代の後半に国学が盛んになると、民族的な思想が広がります。

つまり、仏教は外来文化であって、日本古来の文化は神道だから区別しようとするもので、明治

維新後、政府から神仏分離令（神仏判然令）が出されます。この通達で廃仏毀釈運動というほとんど暴動に近い状態に発展して、多くの寺院で仏像などが破壊されるといった、日本の文化史上最悪といわれる事態となりました。



等妙寺にある首が欠損した石仏



みなさんの近くで、首が落ちていて、あるいは壊れているお地藏様の像をご覧になったことはありませんか？こうしたものは、廃仏毀釈で破壊された可能性があります（写真）。

また、廃藩置県などの政策に伴って寺社領は没収され、財政基盤を失った多くの寺が廃寺化し、一方で神社は整理統合により合祀が進みました。このように、現在の神社や寺の姿は、近代化の波によって大きく変貌してしまっていることを理解しておく必要があります。

以上のことについては、鎌倉時代末の開山とされる等妙寺を理解するうえでも非常に重要です。

今回は、「忘れられた霊山信仰」についてお話ししたいと思います。